経営比較分析表（令和5年度決算）

茨城県　つくば市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	65.25	91.13	2,860	

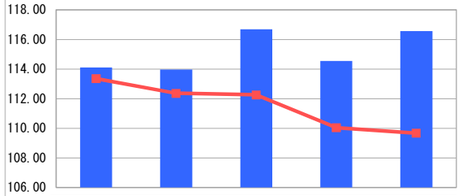
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
255,244	283.72	899.63
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
232,332	283.72	818.88

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

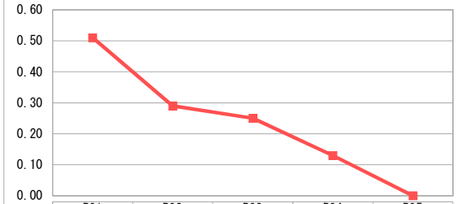
【108.24】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	114.10	113.97	116.68	114.54	116.57
平均値	113.35	112.36	112.26	110.04	109.67

②累積欠損金比率(%)

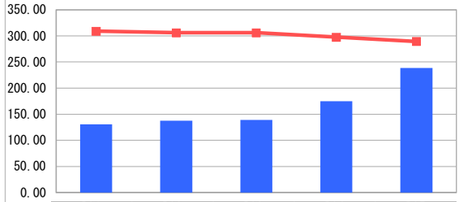
【1.50】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.51	0.29	0.25	0.13	0.00

③流動比率(%)

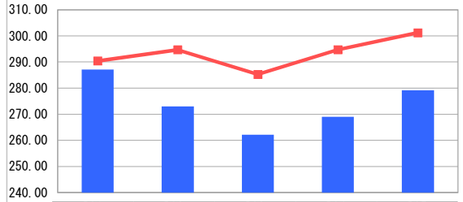
【243.36】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	130.96	137.74	138.85	174.89	238.41
平均値	309.10	306.08	306.15	297.54	289.44

④企業債残高対給水収益比率(%)

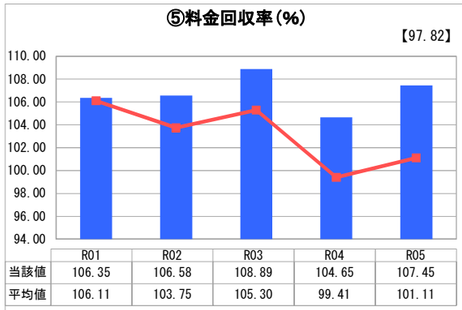
【265.93】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	287.12	273.05	262.14	268.97	279.17
平均値	290.42	294.66	285.27	294.73	301.23

⑤料金回収率(%)

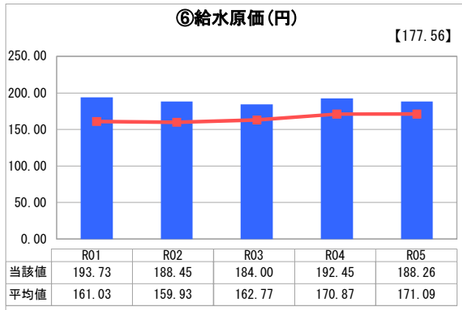
【97.82】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	106.35	106.58	108.89	104.65	107.45
平均値	106.11	103.75	105.30	99.41	101.11

⑥給水原価(円)

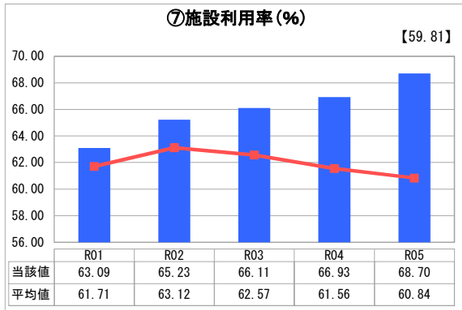
【177.56】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	193.73	188.45	184.00	192.45	188.26
平均値	161.03	159.93	162.77	170.87	171.09

⑦施設利用率(%)

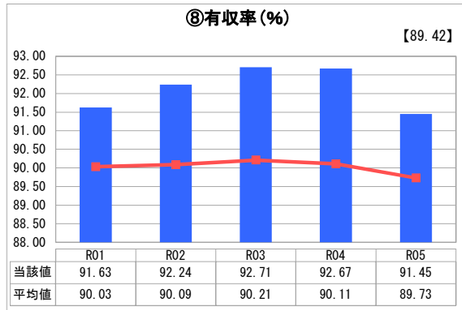
【59.81】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	63.09	65.23	66.11	66.93	68.70
平均値	61.71	63.12	62.57	61.56	60.84

⑧有収率(%)

【89.42】

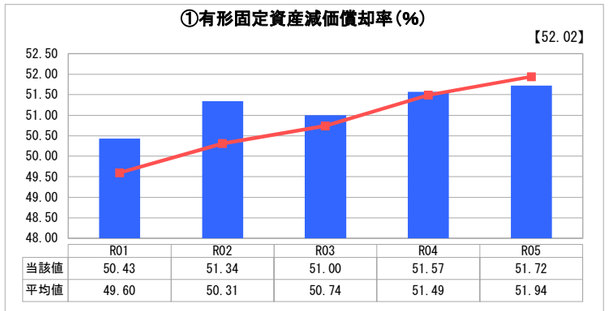


	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	91.63	92.24	92.71	92.67	91.45
平均値	90.03	90.09	90.21	90.11	89.73

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

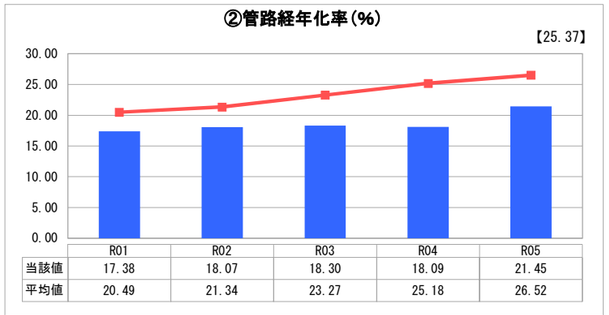
【52.02】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	50.43	51.34	51.00	51.57	51.72
平均値	49.60	50.31	50.74	51.49	51.94

②管路経年化率(%)

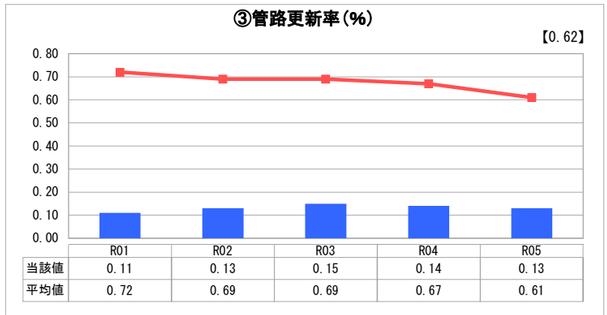
【25.37】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	17.38	18.07	18.30	18.09	21.45
平均値	20.49	21.34	23.27	25.18	26.52

③管路更新率(%)

【0.62】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.11	0.13	0.15	0.14	0.13
平均値	0.72	0.69	0.69	0.67	0.61

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率　⑤料金回収率　⑥給水原価
　経常収支比率及び料金回収率については、前年度より増加しました。主な要因としては、給水人口増加に伴う給水収益の増、前年度に比べ動力費の減などに伴い給水原価が減少したことによるものです。
③流動比率
　前年度に比べ流動資産である現金預金が増加したため流動比率も増加しました。しかし、今後老朽化施設の更新等による支出の増が見込まれているため、資金不足に陥らないよう流動比率の更なる改善が必要です。
④企業債残高対給水収益比率
　企業債を活用し水道未普及地域解消事業を積極的に進めたことに伴い企業債残高が増加したため比率も増加しました。類似団体平均値を下回っていますが、今後も比率に着目し過度な投資にならないよう注視する必要があります。
⑦施設利用率
　TX沿線開発地区や研究学園地区など給水人口の増加により一日平均配水量も増加したため、施設利用率は上昇しました。
⑧有収率
　前年度に比べ漏水等の影響により無効水量が増加したため有収率は微減となりました。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
　既存施設の減価償却費は増加していますが、併せて老朽施設等更新や管路新規整備に伴い償却資産の帳簿原価も増加したため、比率はほぼ横ばいで推移しました。
②管路経年化率
　研究学園地区整備時に布設した管路など法定耐用年数を経過した管路延長が増加したため、比率は増加しました。この傾向は今後さらに増加する見込みです。
③管路更新率
　類似団体平均値と比較すると、低い水準にあります。理由としては、比較的新しい管路が多く更新管路延長が抑えられていることと、水道未普及地域解消事業を進めていることから管路延長が増加していることが挙げられます。

全体総括

　令和５年度は、前年度に引き続き経常収支比率や料金回収率が100%を超えており黒字経営を維持することができました。流動比率は上昇傾向にあり、企業債残高対給水収益比率も類似団体平均を下回っており、経営の安全性も改善傾向にあります。
　しかし、老朽化の状況を示す指標は年々増加傾向にあり、施設の老朽化が進みつつあります。さらに、市内には水道未普及地域も存在しており、併せて新設整備を進める必要があります。老朽化施設更新事業や新設整備事業を進めるためには、将来多額の投資コストを見込む必要があります。
　今後も、経営指標を注視しつつ、必要な投資を積極的に行うことで、経営基盤の強化と水道水の安定供給に努めていきます。